

感染防止対策の徹底を

新型コロナウイルスの感染状況については、今月に入り、増加傾向が強まっているようです。全国的な増加につながる懸念が高まっていますので、これまで以上の注意警戒が必要です。

新たな感染者数の増加傾向に対して、「第3波とってよいのではないか」という意見がある一方で、そもそも第2波は収束したのかと疑問を呈する向きもあります。しかし、「波」とはよく言ったもので、理科で学んだように波には重なり合う性質があります。第2波の上に第3波が重なっていると考えることも出来るわけです。残念ながらこの場合の波は、打ち消し合う干渉は起こりそうもありません。変位量は大きくなる方向にしか振れません。

気温や湿度の低下に伴い、生活環境には変化が生じています。感染に至るリスク等に、これまでとは異なる因子が影響を持ち始めてきているかもしれません。お互いを守るために、感染予防に留意しましょう。水温が下がることで手洗いが疎かになったり、気温の低下によって換気が不十分になったりしないよう（寒気の中でも換気！）気をつけていきましょう。食事の際のマナーや身体的距離の確保など、よろしくお願いします。

大切な冬場のトレーニング

新型コロナウイルス感染症はなかなか収束に向かう気配がありませんが、それでもスポーツや文化・芸術等の大会が、少しずつ行われるようになっていきます。終業式などで紹介できる機会はあると思いますが、西高生もよく健闘しています。

そして、上位入賞した生徒だけでなく多くの生徒が、日が短くなり、気温も低下してきた中で、黙々と練習しています。高校時代の部活動は、取り組む者に様々な経験と成長をもたらしてくれます。辛いこともあると思いますが、「継続は力なり」です。

とはいえ冬場の練習は大変です。トレーニングが中心になるため、粘り強さ、辛抱強さも求められます。それだけに、この時期の取組はとても大切なものとなるのです。取組状況に違いが出やすく、やがて大きな差となって現れます。

「萌えいつる春も冬あらばこそ」や「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」などの言葉を聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。

先日のマラソン大会もそうですが、怠けなくなる自分との勝負の季節です。部活動だけではなく学習面などにおいても、同じことが言えると思います。仲間と声を掛け合いながら立ち向かっていきましょう。

ビブリオバトルに出席して

11月7日（土）に県立図書館で行われた「全国高等学校ビブリオバトル2020群馬県大会」に出席しました。感染症防止対策を取りながら運営されており、安心して観戦することができました。この大会では、自ら希望した高校生が「運営ボランティア」として受付や進行等を担当してくれていました。参加した本の紹介者（バトラー）だけでなく、運営面でも県内の高校生パワーを感じました。

例年ですと、この大会でチャンプ本となった紹介者は、全国大会へ招待されるのですが、今年度は、感染症防止のため中止となっています。それでも、参加したバトラーたちは、自分が面白いと思った本をとて魅力的に発表してくれました。お世辞ではなく、本当にどの本も読んでみたくなり、予選から決勝まで、それぞれ「一番読みたくなかった」本を投票する際にはとても悩みました。

ビブリオバトルのキャッチコピーは「人を通して本を知る 本を通して人を知る」です。言葉の通り、休憩時間などには自然なかたちで交流が行われ、新たな人間関係が生まれていたようです。本について質問したり、感想を伝え合ったり、とてもいいものだなあと感じました。

ところで、読書には受動的なイメージがありますが、必ずしもそうというわけではありません。著者との対話は自分の中において常に行われるはずで、それに加えて、本の内容や感想を他者に伝えることを前提として読む場合や、読書感想文などを書くとして読む場合などは、より一層能動的な本の読み方へと読書の質が変わります。アウトプットしなければならぬわけですから、発信するために様々なことを考えながら本と向き合うことになります。考えや感想を、その理由と共に客観的に見つめてみたり、異なる考え方との対比の中で問いを立ててみたり、自分の過去との対話、未来への視点を伴った時間軸を設定しての考察など、様々なことが行われるようになります。「感想や考えを言語化してみる」というのは、とても素晴らしいことです。

考える力や学ぶ力を高めるためには、「自ら問う力」が必要です。問いを立て、問題と向き合うことで、根拠に基づいて考えていく習慣が出来ていきます。自分一人の考え方ではなく、情報を他者と共有しながら対話や議論を行えば、多様な考え方の共通点や相違点に対する気づきや理解が得られます。様々な考え方をもとにして新たな結合を試みれば、問題を解決していく糸口が見つかることもあるでしょう。

読書週間は終わりましたが、皆さんもこれからも能動的に本に親しんでください。